

古くは通船の船着場であった場所。

今昔とも往来の要衝にあるこの橋は、近隣では大きさも際立っていたことから、自然に「大橋」の名が定着した。この橋の記録は、織田軍の侵攻(1582(天正10)年)の記述がある『下条記』に「伊那部前之橋」とあるのを筆頭に、『信濃国絵図』(1647(正保4)年)や絵巻『高藩探勝』(1743(寛保3)年)にも描かれるなど、古くから記録が残っている。長い期間「木橋」だったが、1933(昭和8)年に永久橋となった。信濃の橋百選に選定されている。



上流からみた大橋



橋の右岸脇に天竜川通運の船着場がある



陸運・
通運

伊那大橋

橋を通る道は国道361号。右岸の入舟で国道153号と交差する。東は高遠、西は権兵衛トンネルを抜けて木曾路の中山道(現国道19号)へと通じ、交通の要所であった。右岸の入舟には船着場があり、物資の集積地としての役割を果たしていた。

大橋が正式名称だが、伊那大橋とも呼ばれている。1885(明治18)年に本格的な木橋が架設され、1916(大正5)年に架け替えられた。その後架け替えられた橋が現在の橋である。

information

□ アクセス

飯田線伊那市駅から
500m
徒歩→6分

□ 所在地

伊那市中央～坂下



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)